

キズ(創傷)は無菌…それは間違った思い込み

褥瘡対策委員会 手塚 敬 (形成外科部長)

西岡 一美 (皮膚排泄ケア認定看護師 主任)

患者さんに「熱傷(やけど)面や創(キズ)もよくシャワーで流し、湯船に浸かって、かさぶたをふやかして除去して下さい」と言うと、「風呂に入ると菌が入ってしまう」と嫌がられることがしばしばあります。また、他の医療施設で治療を受けていた方が、キズに汚れたガーゼ類をあてたまま来院されることも多くあります。

洗わないこと、汚れたガーゼ類をつけたままにしておくことは、キズの雑菌を増やし、感染(体内で菌が増えること)のリスクが大きくなります。なぜ、こう思われている方が多いのでしょうか？

これは根本的に「間違った思い込み」があるためと考えられます。その思い込みとは「キズはもともと無菌」。本当にそうなのでしょうか。

例えば、外科手術では切開前に必ず消毒を行います。これは感染のリスクを減らすためですが、実はそれでも無菌にはなりません。菌はかなり減少するものの、毛根や、小さいかさぶたの裏などにも潜んでいます。手術前に消毒した所ですら無菌ではないのですから、消毒されていない場所にできたキズには初めからたくさんの菌が存在します。そして、キズなどから出る浸出液の中で、菌はあっという間に増えていくのです。

無理にかさぶたを除去して、裏に膿がついていた経験はありませんか？これは増えた菌に対して炎症が起きた証拠です。かさぶたは鼻クソと同じで菌の巣窟なのです。

もうひとつの菌の巣窟は、キズからの浸出液を吸って時間が経過したガーゼです。ガーゼは滅菌している物が多く、袋から出した時は無菌ですが、皮膚などに付着している菌が浸出液を多く含んだガーゼの中で、猛烈な速さで増えます。洗面所の使用頻度の高いタオルがどんどん臭くなっていくのと同じです。

かさぶたやガーゼの中の菌は毒素を作ります。その毒素はキズの細胞を攻撃し、表面の細胞は死んでしまいます。死んだ細胞は菌にとって最高の栄養源になるのです。

つまり、キズを洗わないことや、ガーゼを当てっぱなしにすることは治りにくくす

る行為に他なりません。場合によっては患部が腐ったり、菌が全身に回って恐ろしいことになったりするのです。



褥瘡にガーゼがあてられていたもの。ガーゼには大量の膿が付着しています。

昭和の頃までは「キズは乾燥させる」「きれいなガーゼをあてる」「毎日、消毒に医療施設に通う」などというのが常識でした。平成になる頃に「キズは洗うべき」「適度な湿り気が必要」「濡れたガーゼは腐った組織と同様」などとされ、処置方法も変わってきました。

今、時代は「令和」になりました。次にキズをどう扱おうと良いかを述べます。

救急車を呼ぶほどではないケガをしたら、痛くてもまず、流水でよく洗いましょう。水道水には菌は原則いません。風呂の湯船も何人も入った後でなければ、菌は少数です。お子様などで水がしみると嫌がられる場合は、きれいなペットボトルなどの容器1リットルあたり9グラム程度の食塩を混ぜると刺激がずっと減ります。

洗った後はきれいな布で水分を取ります。その後、とりあえずラップをあてておくこと次の処置の時に無痛で剥がせます。ただ、長くそのままにしておく浸出液が溜まって細菌が増え、横から漏れて周囲を汚してしまうので、ラップのあてっぱなしは好ましくありません。

その後、医療施設へ行くかどうかを判断します。まず、キズが深い、大きい、出血が多い、泥などの汚れが取れない、汚い物で受傷した場合は医療機関を受診した方がよいでしょう。

特に縫うほどのキズなら極力早く受診して縫ってもらう必要があります。時間が経つほど、縫うことによる感染症の発生率が高くなります。何時間も経過して

やっぱり出血が止まらないからと縫うのは非常に危険です。

医療施設へ行くほどでないのなら、キズにあてるパッド類と白色ワセリンなどをドラッグストアなどで購入します。受傷後早期は浸出液が多いので、しっかり液を吸ってくれる厚めのもの、特にキズ側にたくさんの穴があるフィルムなどがついているものが良いです。

日が経つと、浸出液は減ってきます。乾燥すると、かさぶたができて裏に膿が溜まることがあるので、乾燥させないことが大事です。水分をある程度保持する被覆剤を使ってもいいですし、ワセリンを塗布した上にパッドをあてても良いです。

当院での褥瘡(床ずれ)の処置は、ワセリンを塗布して直接おむつをあてるなどしております。これらの交換、洗浄は最低でも一日一回は行ってください。回数が多いほど感染の危険性は低くなります。

数日すると、キズの表面に黄色い泥状のものが付着します。無菌ではありませんが、たいていの場合感染はしてはなりません。感染するとキズの周囲が赤く腫れてきて痛みが増強します。その時は医療施設を受診しましょう。黄色い泥状のものは、長く湯船に浸かっていると剥がれ落ちることが多く、できるだけ落とされた方が清潔です。しかし、痛みもあり、無理をすると出血するので、ほどほどで大丈夫です。

黄色い浸出液がなくなれば、乾燥させてもいいですが、薄くワセリンを塗る方が早く治ります。



最近の吸水パッド。吸水部とキズの間に透過性フィルムをはさむことによって、キズが菌の毒素にさらされにくくなっています。